

2020年3月25日付韓国環境部プレスリリース

京畿道、江原道の野生イノシシからASF ウイルス検出 (野生イノシシ 431-439 例目)

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do;jsessionid=jMOO7OJqr-LKUqWRyBDSXhAx.mehome1?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1359475&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

□環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は3月23日～24日、江原道(カンウォンド)華川郡(ファチョングン)華川邑(ファチョンウプ)および上西面(サンソミョン)、京畿道(キョンギド)漣川郡(ヨンチョングン)漣川邑(ヨンチョンウプ)旺澄面(ワンジンミョン)および中面(チュンミョン)、坡州市(パジュシ)長湍面(チャンダンミョン)で発見されたイノシシ死体9個体からASF ウイルスが検出されたと3月25日明らかにした。

□国立環境科学院は3月25日死体9個体からASF ウイルスを検出したことを関係機関に通知した。これで華川郡(ファチョングン)170件、漣川郡(ヨンチョングン)165件、坡州市(パジュシ)81件、鉄原郡(チョルウォングン)23件、合計439件のイノシシASF 陽性事例となった。

○野生イノシシASF 標準行動指針により試料採取後現場消毒と共に死体は処理された。

□国立環境科学院は「今回発見された死体は全て広域フェンス内の既存感染地域で環境部捜索チームと農業従事者が発見したもので、この地域では感染死体がさらに出てくる可能性が高く、捜索を強化して死体を速かに除去する」と明らかにした。

以上